

平成26（2014）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 演習科目》

科目名	卒業演習 I		科目ナンバリング	ESZS14007
担当者氏名	三宅 伸二、石原 敬子、高野 敦子、榎木 浩、竹川 宏子、中本 淳、穂積 隆広			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力			

《授業の概要》

各コースの専修科目で、「専門演習 I・II」で学んだことに基づいて、各自研究テーマを設定し、卒業研究に取り組む。授業では、教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。

《テキスト》

各ゼミの担当者から指示する。

《参考図書》

各ゼミの担当者から指示する。

《授業の到達目標》

- ・3年次までに学んだことを卒業研究のテーマに合わせてさらに発展させる。
- ・論理的に考える力を身につける。

《授業時間外学習》

各ゼミの担当者から指示する。

《成績評価の方法》

各ゼミの担当者から説明する。

《備考》

2017年 II 期の卒業研究提出に向けて各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

※各ゼミの担当者が随時質問等に対応する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
2	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
3	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
4	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
5	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
6	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
7	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
8	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
9	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
10	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
11	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
12	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
13	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
14	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
15	各ゼミの担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	卒業演習Ⅱ		科目ナンバリング	ESZS14008
担当者氏名	三宅 伸二、石原 敬子、高野 敦子、榎木 浩、竹川 宏子、中本 淳、穂積 隆広			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力			

《授業の概要》

各コースの専修科目で、「卒業演習Ⅰ」で取り組んだ研究内容をさらに発展させ、卒業研究に取り組む。授業では、教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を発展させていく。

《テキスト》

各ゼミの担当者から指示する。

《参考図書》

各ゼミの担当者から指示する。

《授業の到達目標》

- ・卒業研究を仕上げる。
- ・論理的に考える力を身につける。

《授業時間外学習》

各ゼミの担当者から指示する。

《成績評価の方法》

各ゼミの担当者から説明する。

《備考》

卒業研究提出に向けて各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

※各ゼミの担当者が随時質問等に対応する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
2	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
3	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
4	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
5	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
6	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
7	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
8	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
9	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
10	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
11	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
12	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
13	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
14	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。
15	各ゼミ担当者から指示	※授業計画については、第1回目の授業時に各ゼミの担当者から説明する。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	卒業研究		科目ナンバリング	ESRS24001
担当者氏名	三宅 伸二、石原 敬子、高野 敦子、榎木 浩、竹川 宏子、中本 淳、穂積 隆広			
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
				4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-4 プレゼンテーション力 ○ 1-5 論理的思考力 ○ 2-1 問題発見力・分析力			

《授業の概要》

「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」で取り組んだ研究内容を卒業論文（もしくは作品）にまとめ、発表する。

《テキスト》

各ゼミの担当者から指示する。

《参考図書》

各ゼミの担当者から指示する。

《授業の到達目標》

- ・卒業研究を仕上げる。
- ・論理的に考える力を身につける。
- ・自分が取り組んだ研究内容について、口頭発表や文章にまとめて伝える力を身につける。

《授業時間外学習》

卒業研究提出に向けて、各ゼミの担当者から指示に従い、研究を進めること。

《成績評価の方法》

指定された期間内に提出された卒業研究の内容をもって評価する。（提出物、提出期間など詳細については、決まり次第、掲示により通知する。）

《備考》

卒業研究提出に向けて各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

※各ゼミの担当者が随時質問等に対応する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
2	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
3	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
4	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
5	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
6	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
7	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
8	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
9	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
10	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
11	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
12	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
13	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
14	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。
15	各自のテーマに従い卒業論文（作品）を作成	教員指導の下、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を進展させていく。

科目名	応用プログラミング B		科目ナンバリング	EIPL24013
担当者氏名	穂積 隆広			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-1 問題発見力・分析力 <input type="radio"/> 2-3 システム的思考力			

《授業の概要》

現在のコンピュータは画面上の表示をマウスで操作するGUIが主流となっています。この授業ではこのようなGUIベースのアプリケーションソフト開発の基礎としてMicrosoft社のVisual Basicを使用したプログラミングについて学びます。

《テキスト》

必要に応じてプリント等を配布します。

《参考図書》

授業中に適宜紹介します。

《授業の到達目標》

この授業ではまずVisual Basicを使ったウィンドウプログラミングの基礎として、アプリケーションウィンドウの作成法と、そのウィンドウ上のボタンなどを操作したときに記述した命令が実行されるイベント駆動型プログラミングについて学びます。また、それぞれのボタンやメニューなどのフォーム要素（コントロール）に対応したクラス変数について説明し、オブジェクト指向型プログラミングについても学びます。

《授業時間外学習》

授業ではプログラムを作成しますが、どのようなプログラムを作るのかを先に考えていないと先には進めません。毎回予習として自分が作るようとしているものがどのような仕組みのものかきちんと説明できるよう準備しておいてください。また、授業内で作ったプログラムを振り返り、様々な課題に応用して復習するようにしてください。

《成績評価の方法》

毎回の課題（40%）と、期末試験（60%）によって評価します。それぞれの課題の出来具合については個別に通知する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Visual Basicの基礎	Visual Basicのプログラム開発環境について説明し、ウィンドウプログラミングの基礎を身に付ける。
2	電卓の制作	ウィンドウ上に配置したそれぞれのボタン類ごとにプログラムを記述し、動作させるイベント駆動型プログラミングについて説明する。
3	カレンダー	Visual Basicにおける変数の取り扱いや、条件分岐や繰り返しといった制御文について説明する。
4	並べ替え	Visual Basicにおける配列変数の取り扱いについて説明する。
5	タイピングゲーム	Visual Basicにおけるキー入力の取り扱いについて説明する。
6	時計	ウィンドウへの描画命令とタイマーイベントについて説明する。
7	ライフゲーム	ウィンドウへの描画命令とタイマーイベントを使った応用プログラムを作成する。
8	マインスイーパー	ウィンドウへの描画命令と再帰プログラミングの基礎を説明する。
9	画像ビューア	画像ファイルの取り扱いとウィンドウへのドラッグアンドドロップについて説明する。
10	テキストエディタ	ファイルの読み込みや書き込み時に使用するファイルダイアログの取り扱いについて説明する。
11	方眼紙	印刷ダイアログの取り扱いなど、ウィンドウに描画した内容の印刷方法について説明する。
12	リバーシ	ゲームの盤面をクラスとして定義したオブジェクト指向型プログラミングの考え方について説明する。
13	リバーシ	ゲームの盤面をクラスとして定義したオブジェクト指向型プログラミングの考え方に基づいてゲームを完成させる。
14	応用課題	まとめと復習
15	応用課題	まとめと復習

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（高）		科目ナンバリング	ETAL44018
担当者氏名	岡本 洋之			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	履修カルテ参照			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

「人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題」、特に「人権問題」「モラルの構築」「環境問題」の3点を意識した高等学校教員となるため、以下の4事項を学ぶ。(1)「人権問題」をふまえた使命感や責任感、教育的愛情等、(2)「モラルの構築」をふまえた社会性や対人関係能力、(3)「環境問題」をふまえた教科内容等の指導力、(4)生徒理解や学級経営等。

《授業の到達目標》

授業のねらいは、皆さんが身に付けてきた資質能力を、「人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題」、特に「人権問題」「モラルの構築」「環境問題」の3点をふまえて教育現場で指導できる能力として有機的に統合し、形成することにある。教員として担当教科内容の枠にとどまらず、上記課題を意識して職責を果たすのに必要な視点を獲得することを目標とする。

《成績評価の方法》

課題（見学レポート）（60％）と授業参加度（教職をめざす者としての態度・意欲、発表参加の度合い）（40％）により評価する。  
成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamotoh@hyogo-dai.ac.jpである。

《テキスト》

特には指定せず、必要に応じて印刷物を配布する。

《参考図書》

- ・西之園晴夫・宮寺晃夫『教育の方法と技術』（佛教大学教育学叢書）
- ・兵庫県在日外国人教育研究協議会他編『多文化・多民族共生教育の原点』（明石書店）
- ・伊井義人監修『藤女子大学人間生活学部公開講座シリーズ3 フューチャースクール×地域の絆@学びの場』（六耀社）

《授業時間外学習》

授業の性質上、各自の課題を自分で見つけて意欲的に自学自習せねば、授業の目標に到達できない。

《備考》

本授業は学外の方々のご協力をいただいて行う関係上、時間割上の時間をしばしば変更して実施せざるをえない。そのため掲示等には十分注意されたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教員紹介、本授業の目的、学習目標、学習方法、評価方法等
2	モラルの構築(1)	学童保育所等見学の事前学習（説明と質疑）
3	モラルの構築(2)	学童保育所等見学第1回
4	モラルの構築(3)	学童保育所等見学第2回
5	モラルの構築(4)	学童保育所等見学の事後学習（学生による発表と質疑、担当教員による総括）
6	環境問題(1)	高等学校授業見学第1回の事前学習（説明と質疑）
7	環境問題(2)	高等学校授業見学第1回（高等学校教員との意見交換を含む）
8	環境問題(3)	高等学校授業見学第1回の事後学習（学生による発表と質疑、担当教員による総括）
9	生徒理解と学級経営等(1)	高等学校授業見学第2回の事前学習（説明と質疑）
10	生徒理解と学級経営等(2)	高等学校授業見学第2回（高等学校教員との意見交換を含む）
11	生徒理解と学級経営等(3)	高等学校授業見学第2回の事後学習（学生による発表と質疑、担当教員による総括）
12	人権問題(1)	小・中・高校生補習教室等見学の事前学習（説明と質疑）
13	人権問題(2)	小・中・高校生補習教室等見学（NPOスタッフ等との意見交換を含む）
14	人権問題(3)	小・中・高校生補習教室等見学の事後学習（学生による発表と質疑、担当教員による総括）
15	全体総括	「人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題」を意識して職責を果たすこと。総括と質疑

《教職に関する科目》

科目名	教育実習事前事後指導			科目ナンバリング	ETAL44014
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・通年(I期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業は必ず「高等学校教育実習」とセットで履修登録すること。また不定期開講となるため、掲示に十分注意されたい。I期のおおよその予定は次の通りである。

- (1) 教育実習事前学習会(模擬授業)--4月および5月
- (2) 教育実習に関する講話--同上, (3) 教育実習報告会--6月

《テキスト》

本学から発行される『教育実習の手引き』

《参考図書》

「高等学校教育実習」のページを参照

《授業の到達目標》

事前指導としては、教育実習の目的、実習校の立場・状況、高校生の関心度を理解し、実習期間中の態度と教員としての認識を深める。事後指導としては、実習報告書の作成と実習報告会を通して、実習生各自の体験を深めるとともに、教員としての資質の充実をはかる。

《授業時間外学習》

科目の性質上、各自の課題を自分で見つけて意欲的な自学自習をしなければ、授業の目標に到達することができない。

《成績評価の方法》

II期分と合わせ、平常点(100%)のみとする。授業への参加度を評価の基準とする。基本的に全回出席を単位の条件とする。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamotoh@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

時間割上は土曜午後に一時間だけ設定されているが、4・5月は長引くのがふつうであると考え、同月の土曜午後には他の予定をいっさい入れないこと。それ以後は不定期開講とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		不定期開講につき本表では表示できない。学修時間の合計をもって「通年1単位」としているのであり、本授業においては授業回数と単位数につながりはない。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教職に関する科目》

科目名	教育実習事前事後指導			科目ナンバリング	ETAL44014
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業は必ず「高等学校教育実習」とセットで履修登録すること。また不定期開講となるため、掲示に十分注意されたい。Ⅱ期のおおよその予定は次の通りである。

- (1) 高等学校授業見学--秋
- (2) 兵庫県播州地域に特有の教育問題に関する特別見学--冬

《テキスト》

本学から発行される『教育実習の手引き』

《参考図書》

「高等学校教育実習」のページを参照

《授業の到達目標》

事前指導としては、教育実習の目的、実習校の立場・状況、高校生の関心度を理解し、実習期間中の態度と教員としての認識を深める。事後指導としては、実習報告書の作成と実習報告会を通して、実習生各自の体験を深めるとともに、教員としての資質の充実をはかる。

《授業時間外学習》

科目の性質上、各自の課題を自分で見つけて意欲的に自学自習せねば、授業の目標に到達できない。

《成績評価の方法》

I期分と合わせ、平常点（100%）のみとする。授業への参加度を評価の基準とする。基本的に全回出席を単位の条件とする。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamoto@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		不定期開講につき本表では表示できない。学修時間の合計をもって「通年1単位」としているのであり、本授業においては授業回数と単位数につながりはない。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		



《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習	科目ナンバリング	ETAL44017
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

受講生は全員が、定められた期間、あらかじめお願いをしてきた高等学校で、受入れ校の指導教員のアドヴァイスを承りながら、学校教育の見学と実践を行う。

《授業の到達目標》

教科に関する科目と教職に関する科目の総決算ともいえるべき教育実習を行う。具体的内容として、(1)実習に臨む態度、実習校の組織と実習生受入れの立場、事前訪問時の書類作成、(2)教科指導(教材研究と資料の準備、指導案作成、授業運営)、(3)生徒指導(注意のあり方、体罰禁止等)、(4)実習日誌の書き方などについて、実習校の指導教員が具体的・現実的に教育指導し、本学の担当者が責任をもつ。

《成績評価の方法》

実習受入れ校の指導教員の所見(100%)に基づいて合否を決定する。ただし教育学のイロハである「個に応じた指導」の原則に基づき、柔軟に運用することがある。  
成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamoto@hyogo-dai.ac.jpである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		授業の性質上、本表では表示できない。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《テキスト》

とくに定めないが、全員が『教育実習日誌』と『教育実習の手引き』を実習校に毎日持参し、日誌の所定欄に記入するとともに、指導教員に所見等の記入をお願い申し上げること。

《参考図書》

- ・教育実習を考える会編『実践「教育実習」』教育実習を考える会編(蒼丘書林)
- ・教師養成研究会編著『教育実習の研究』(学芸図書)
- ・白井慎他編著『教育実習57の質問』(学文社)

《授業時間外学習》

授業の性質上、各自で課題を見つけて積極的に行わねば授業の目標に到達できない。

《備考》

本科目を履修登録するためには、別に定められた単位取得に関する要件をクリアしたうえで、前年度のうちに実習校から教育実習受入れ内諾を得ていなければならない。